

先人の知恵と思いを次の世代に

真浦天畑保存会



辻昇 会長

真浦天畑の花栽培は、地元農家の人達が語る山畑でした。しかし、国道から見えるよく手入れされた段々畑も、地域の高齢化には勝てず、平成に入ると区所有の畑と耕作戸数13軒のうちの1軒を残し、耕作放棄地となってしまいました。加えて、インシシ出沒による被害も拍車をかけています。

真浦天畑保存会が誕生したきっかけは、和田地域の各団体が集まってつづられた「和田地域ふるさとづくり協議会」にあります。

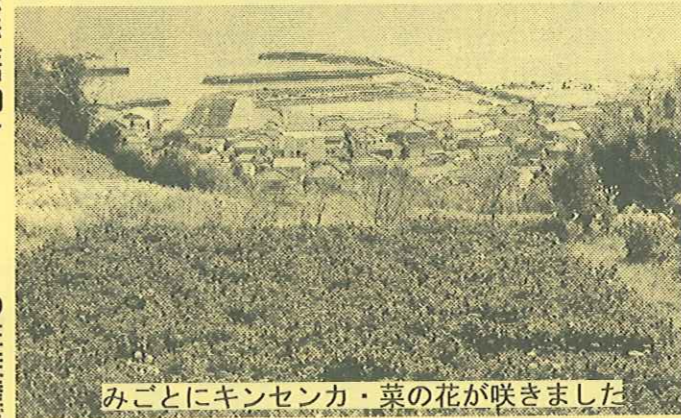
同会は、総合的にふるさとづくりに取り組む団体でしたが、モデル事業期間の終了と共に、活動内容を真浦天畑に特化して活動を続ける、「真浦天畑保存会」が誕生することとなりました。

保存会の会員数は、現在25名。会の目的を、「地域の代表的な段々畑である、上ノ山畑・天上畑と呼ばれている美しい景観を再生保存し、様々な交流活動を通じて、活気のある地域づくりに貢献すること」、活発に活動しています。

天畑の竹・雑木林に再び開墾の手が入ったのが3年前。その時の様子が、下にある写真です。重機の上がらない天畑で、会員は、全て手仕事で開墾を進めました。その仕事の大変さが想像できます。



和田小・南三原小の子どもたちと協力して苗を植えました



みごとにキンセンカ・菜の花が咲きました

花苗の植栽や手入れは、和田地域の小中学校の児童生徒も、協力して行っています。これは、天畑のすばらしさをそこに係わる人々の思いを、是非子ども達にも知らせ、共有したいという願いからです。天畑には現在、菜の花やキンセンカなどの他に、花桃や莊川栴などが植栽されています。また、畑の上の方には広葉樹が程よく残された広場が造成され、手作りのテーブルとベンチが設置されています。ここで、花見やハイキングの休憩が出来るといいですね、心遣いによるものです。

「この景観が次世代まで伝わるものでありたい」「次世代以降、更に美しくなっているものになりたい」「そのような長い時間の流れを意識して、天畑の景観作りに取り組んでいる」と、社会長は熱く語ります。

今年度の活動には、天畑の整備や小学生と一緒に花の植栽、莊川栴の植栽などが計画されていますが、それと共に寮いぞは打ち体験やインシシ汁の会なども予定されています。仕事の後のご褒美というわけです。

また、特にすばらしいのは、拓心高校の生徒達がその専門的技術を活かして、天畑の石垣補修を担当してくれることです（作業は協働）。

拓心高校の地域貢献意識と支援、これも和田の地域づくりにとっての大きな力です。



原野に戻ってしまった状態の天畑の様子です



再開墾中の天畑の様子です

発行者 南房総市・和田地域づくり協議会「WAO!」
連絡先 南房総市役所和田支所内 地域づくり支援員
電話 支援員 0470-47-5955
支所 0470-47-3111
E-mail qq4u9y89n@royal.ocn.ne.jp

『WAO!』総会終わる



挨拶する佐社会長

前号でお知らせしましたが、和田地域づくり協議会『WAO!』の23年度定期総会(NPO法人設立総会)が無事終わりました。

議事は、22年度の事業や決算の承認のほか、NPO法人化に向けた定款(規則)、役員、事業計画、予算等が慎重審議されました。

NPO法人(特定非営利活動法人 和田地域づくり協議会『WAO!』)の事務局は、和田「ミニ」メディアセンター内に置かれる予定です。また、法人役員は、前号で紹介しておきました。

翌日には、承認された内容を書類にして、県民交流文化課に提出しました。これらの情報は2ヶ月の公開(縦覧)期間を経て、認可になることとなります(予定)。公開は、下のインターネットページで行われます。

一方、「地域づくり中核施設」の建設は、東日本大震災との関わりもあり、市当局では地元の皆様と十分に話し合いを行いながら、その施工の時期を検討していく予定です。

また、現在「ミニ」メディアセンターの外壁の剥落

で、来所や通行等に不便をおかけしています。石井市長が、これについては近々補修工事が開始される予定です。



来賓として参加頂いた区長さん方です



市長 市井石井 市長 市井石井 市長 市井石井

ADAISU

和歌山県 和歌山市 和歌山県 和歌山市

平成23年5月28日

MAO! 和田地域づくり協議会

このページには、「千葉県NPO情報ネットトップページ」と打ち込んでも行けます。

窓の中の団体名をカーソルで動かして、上に移動させます。

NPO法人の設立・運営
法人手続き様式ダウンロード

(<http://www.chiba-npo.jp/>)

- Sun Valley International Education(申請日:4/28)
- こばてい子ども参画イニシアティブ(申請日:4/27)
- 和田地域づくり協議会「WAO!」(申請日:4/26)
- 福龍の家(申請日:4/26)



総会の時の会場の様子です

直売所出品者(の)説明会を開催します

直売所の開設に伴う、生産者の皆様への事前説明会を左の日程で行います。

6月8日(水)	北三原公民館	午後1時30分
9日(木)	くすの木	午後1時30分
10日(金)	和田「ミニ」	午後1時30分
13日(月)	やすらぎ	午後1時30分
13日(月)	和田「ミニ」	午後7時

説明会は、これまでの経過と組織作り等について説明させていただきます。ご希望するものです。

和田からも被災地に ボランティアの手が

新聞等の予告で、宍戸地域(3市1町)のボランティアの方々48名が、14日(土)に宮城県石巻市に支援物資を持って、訪問しました。グループ名は、「宍戸なのはな隊」と言います。和田からは、3名の方が参加しました。

行かれた方の話によると、被災地の様子は聞きしに勝るもの。今、倒壊した建物は大部分片付けられているようですが、まだ道路脇には、がれきがうずたかく積まれているとのこと(下の写真で、その幾分かは伝わってきます)。

しかし、何とも言えない腐臭がまだ辺りに充満しているとのこと。

こちらから持参したのは、次のような物でした。主な物を紹介すると、

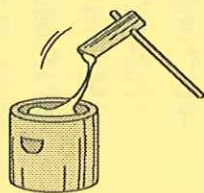
- ・花……………1700束
 - (カーネーション、ダリア、ストック、チース等)
 - ・もち米……………200kg
 - ・うるち米……………150kg
 - ・夏みかん……………400kg
 - ・きなこ……………7kg(自家製)
 - ・あんこ……………十数kg
 - ・ダイコン……………?
 - ・キユウリの漬け物……………1000本
 - ・土羹……………3500袋
 - ・新古衣料……………お菓子類
 - ・トイレトペーパーなどの日用品
- ※ 必要な用具、調味料などは勿論持参です



支援物資は、トラック2台に積み、ボランティアの方達は南房総市・館山市のバスに分乗して14日の夜12時に出発し、朝の8時に現地に到着しました。



当日の会場の様子です
(石巻市 日和山神社)



現地の状況は上に書いたとおり大変なのですが、石巻の人々は歓迎してくれ、石巻港近くの高台にある「日和山神社」で、「石巻復興祭り」というイベントを企画してくれました。

上の写真は、こちらから持って行った花やミカン、食料、日用品などを集まった方々に手渡している様子、今回のボランティア活動の発起人が所属する音楽団体の演奏風景です。

また写真にはありませんが、持ち込んだ炊飯道具や臼、杵を使って餅つきをしました。つきあがった餅はあんやきなこ、からみ、たいこんなどで味付けして振る舞われました。

地元からは、「御興」や「チンドン屋」の演奏等の出し物もあり、交流も行われました。

前で紹介した方が、こんなことも言っていました。

支援物資を一通り分け終わって、一休みしている時、おばあさんが「ビニル袋を1つ下さい」とやって来ました。

「どうするんですか」と聞くと、「さっき、セーターを頂いたんで、ビニル袋に入れて、冬までしまっておきたいんです」との返事。

「持って行った物を、あんなに大事に受け取ってくれると、こっちもやりがいがあるね」

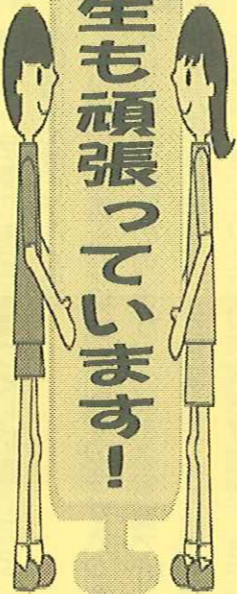
この方は、20日から今度は気仙沼に、支援物資を持って訪問するそうです。



日和山神社から被災した石巻の海岸方面を見渡した状況です(5月15日)

和田

中学生も頑張っています!



5月7日(土)の宍戸新聞でも報じられました。和田中学校野球部が、宍戸市中学校春季野球大会で優勝しました。春季大会での優勝は、和田中学校創部以来初めてのことであります。優勝までの道のりは、中央の写真の上部にあるとおりです。

試合後の談話(宍戸新聞)にもあるように、

4月以降に十分な練習ができずに万全でない状態のまま大会に臨んだが、試合ごとに粘り強さを見せ、最後まであきらめずに全力でプレーしたのが優勝に結びついた。14人と少ない人数ながら、全員がその役目を果たしてくれた。

と、松本監督もその喜びを語っています。

この「わだいき」では、主に地域の大人の方々地域づくり活動をお知らせしていますが、今回の和田中の野球部の頑張りも、紙上で皆様にお伝えすることで、地域に喜びと元氣をお届けできると考え、取り上げました。

中三	丸山	三丸	1	3
中二	山田	丸山	4	4
中一	千倉	和田	5	2
和田中	和田中	和田中	7	4
和田中	和田中	和田中	5	5

1回戦 勝利
2回戦 勝利
準決勝
決勝



春季大会を優勝した和田中野球部員

部員の皆さんのコメントも頂きましたので、紹介したいと思います。

今大会は、4試合とも苦しい戦いで、一戦一戦気合いを入れて臨みました。

その気持ちが優勝に結びついたと思います。試合後、対戦相手の悔し涙を見ました。その選手達の気持ちを考え、代表にふさわしい態度で県大会に臨みます。

松本 飛勇馬

今回の大会は、どの試合も拮抗で、それを勝ち抜いたという事はチームとしても大きいと思います。

でも、守備の時などベンチからの声がかさかさしたもので、つぎの試合で出せるようにしたいと思います。

黒川 大輔

この大会は、どのチームも力を付けてきていて、拮抗が続きました。

その中で、チャンスでの一本がよく出ていたと思います。ベンチでは声がさかさかしたけど、保護者や地域の方の応援で勝ち抜いていったと思います。

県大会では優勝をねらい、感謝の気持ちを忘れずプレーしたいです。

中山竜之介



県大会を目指して練習に励む野球部員(和田中グラウンド)

大会参加野球部員

松本 飛勇馬	3年	投手
小野 亮輔	3年	一塁
湯本 拓大	3年	二塁
黒川 山英	3年	三塁
黒川 海斗	2年	遊撃
小泉 龍之介	2年	左翼
中山 隆平	3年	中右外
中山 広洋	2年	右外
渡辺 正洋	3年	中外
鈴木 吉野	3年	内野
相川 拓巳	2年	内野
白井 貴大	2年	内野

※ 敬称略

この快挙を皆さんで喜びたいと思います。